

2018年11月27日

2018年度 明治大学大学院外国人学識者招聘事業報告書

コーディネーター

研究科： 農学研究科

職 格： 専任教授

氏 名： 池田 敬

1. 外国人学識者

- ・氏 名： タニヤ タピンカエ
- ・所属機関： タイ国、チェンマイラジャパット大学准教授
- ・招聘期間： 2018年10月28日～2018年11月13日（計17日間）

（外国人学識者紹介）

タピンカエ博士は、オーストラリアの大学院で博士号を取得した後、現職に就かれた。2015年に明治大学と学部間協力協定（MOU）を締結した際の、同大学農業技術学部学部長であり、先方の責任者として尽力頂いた。そしてその前年に実施した学生引率において、学生8名の受け入れを頂き、学長はじめ同学の皆様より素晴らしい歓待を受け、研究交流などを行った。また、コーディネータとは、図書共同執筆、2013年同博士・大学主催の国際学会への出席（その際、弊研究室学生がベストポスター賞を受賞）など、深いつながりがある。

同博士の研究活動において特筆すべきは、タイにて農業関連ベンチャー企業を立ち上げ、経営に成功されていること。さらにタイ北部におけるゴールドトライアングル（大麻栽培による麻薬製造）地域の浄化（高収入農作物栽培への代替）に関するロイヤル（国家）プロジェクトにも関わられていることから、研究のみならず、社会貢献においても多くの業績を残されている。

2. 総括および今後の展望

先生が弊研究室に滞在された2週間半において、大学院生はもとより、学部生においても非常に大きなインパクトがあったと確信する。ほとんどの学生達にとっては海外からの訪問者は非日常であり、英語でコミュニケーションを取る重要性はもとより（後述）、海外の農業の現状や考え方の違いを伺うことは、授業などで聞く日本農業の現状と対比して考える上でも非常に貴重な時間であったと考えられる。タイ国における政治的な背景（国王主導型プロジェクト、トムヤンクン通貨危機後の状況など）、地政学的な背景（隣国と国境を接

していることなど) などから、農業に関わる取り組みをお話くださったことは、どうしても自分の国の農業のみに注目してしまう学生にとって、考えたことがない、想像したことがないことを学ぶ、新鮮な経験となつてあろうと考えられる。また、食に関するたくさんのお土産を持参頂いたことから、食文化の違いをディスカッションすることもでき、研究対象としての植物に関するだけでなく、ビジネスやマーケティングの面からも勉強できたと思われる。

さらに、英語に関しても、この期間ずっと英語でコミュニケーションをすることになり、ごく少数の留学経験のある学生を除いて、研究室内で常に英語が飛び交っている状態になったことは、学生にとって貴重な経験であったと思われる。特に、先生には貴重なお時間を頂き、学生が自身の研究を英語で発表する機会を作った。日本語でも難しいことを英語にするとさらに伝えることの難しさを経験し、学生にとって大変貴重な勉強の機会となった。先生には躊躇する学生を励まして頂き、また辛抱強く彼らの英語に耳を傾けて頂き、貴重なアドバイスを個々に頂いた。

期間中、学生を見ていて感じたことは、お越しになった当初は遠巻きに見ているだけで、話しかけることは皆無であったが、徐々に先生がいること、英語を聞くこと話すことに慣れていき、最後は先生を囲んで膝をつき合わすように話をする、聞くという状態になっていた。コミュニケーションとは自分から進んで相手に近づいていかないと、貴重な機会を失うことを身をもって知ったと何人もの学生が話しており、これからも積極的に研究者にお越し頂き、学生との交流の場を設定したいと改めて感じた。

また、学生は全員タイに行ってみたいと言うようになり、今回の先生の訪問が学生にとってタイに親近感を抱くきっかけとなった。両国の関係発展に学生が寄与するかも知れないことから、先生の招聘は成功であったと言える。

今後も弊研究室およびコーディネータは国際連携を推進する。すでにコーディネータは今回招聘したタイ国、チェンマイラジャパット大学、に加えて、オーストラリア国、クイーンズランド工科大学、およびインドネシア国、ジャンビ大学との協力協定を確立した。せっかく確立したこれら協定を形骸化させずに、活発な活動ができるように注力する。また、さらにインドネシア、マレーシアなど別の大学とも交渉を始めており、さらなる協力協定を結べるように推進していく所存である。

以 上